



さよなら中野武蔵野ホール！！

2004年5月7日、昭和60年に開館した中野武蔵野ホールは幕を閉じた。
ひとつの時代を築き、多くのファンに惜しまれつつ閉館した中野武蔵野ホールへの
オマージュをこめて、旧支配人へのインタビューや、監督からの追悼文、
最終2日間レポート等でその歴史を振り返ります。

最終2日間イベントレポート

'04年5月6日(木) この日の上映作品、矢崎仁司監督の『三月のライオン』（'91）を観るべく、久しぶりに中野武蔵野ホールを訪れると、そこにはあふれんばかりの人。外観の写真を撮っている人も多く、活気にあふれていた。会場は満員御礼で立ち見が相次ぐ中、矢崎監督が登場。「映画館のスクリーンと暗闇は、映画でないものを蹴飛ばす力がある。私はそれを中野武蔵野ホールで教わりました。中野武蔵野ホールの暗闇ありがとう。」会場内、静かに響いたこの台詞に、思わず胸がツンとなった。その後、上映された『三月のライオン』は、「間違いなく素晴らしい映画」だと、中野武蔵野ホールの暗闇から認められている事が実感できた1日でした。（浜崎）

三月のライオン 1991年/118min/カラー/日本

監督：矢崎仁司 製作：西村隆 脚本：宮崎裕史・小野幸生・矢崎仁司 撮影監督：石井勲
出演：趙方豪、由良宜子、奥村公延、内藤剛志、諏訪太郎、石井聰互 他

ストーリー 兄と妹がいた。妹は兄をとっても愛していた。いつか兄の恋人になりたいと、心に願っていた。ある日、兄が記憶を失った。妹は、兄に恋人だと偽り、病院から連れ出した。記憶喪失の兄は、恋人だという女と一緒に暮し始めた。そして、兄は恋人を愛した。恋人の名はアイス。～「あたしアイス、あなたの恋人です。」～



'04年5月7日(金) 最終夜を飾る作品は、中野武蔵野ホール初の大ヒットとなった松井良彦監督の『追悼のざわめき』（'88）。もちろん会場は満員御礼、立ち見どころか後方ドアまでギュウギュウ詰めとなりました。松井監督はビールを片手に、目頭を押さえながら「中野武蔵野ホールよ、永遠なれ！」と舞台挨拶。その涙と言葉に激しく心を揺さぶられました。そして、場内を包む不思議な高揚感。この場にいる観客全員と強い一体感を覚えたのは私だけではないはずです。別れを惜しむ観客の足は途絶えず、24時からの追加上映が急速決まったほど。中野武蔵野ホールの最後に相応しい、盛況な夜となったのでした。（小里）

追悼のざわめき 1988年/150min/モノクロ/日本

監督・脚本：松井良彦 製作：安岡卓治 製作補：山本希平 演出補：佐々木宏
出演：佐野和宏、仲井まみ子、村田友紀子、隈井士門 他

ストーリー 大阪。釜ヶ崎。夏。炎天下。疎外された人々の愛と憎しみ、熱情と暴力。誰もが持つ、両極の心情を描くことで、「何が“正”で、何が“邪”か!」を激しく観客に問いつめる、魂のインモラル ファンタジー。



中野武蔵野ホールへの最後のメッセージ（中野武蔵野ホール職員：山本真美さんより）
中野武蔵野ホールで、何度も見たくなるドキドキする映画をたくさん発見できたコト誇りに思います。本当に大好きで心の拠り所でした。私の中で武蔵野ホールは、永遠にびかびか輝く、一等大切な映画館であります。



矢崎仁司監督（『三月のライオン』）特別掲載 『映画館の死』

映画館の死
オートバイで疾走する恋人たちがいた。風を感じて運転する少年。そんな彼にしがみつくように乗っている少女。突然、少女が微笑み、両手で少年に目隠しをする…と、スクリーンが滲んだ。入り口付近に立っていた私は頭上の映写室を見上げた。映写室の窓も滲んでいた。編集集中、私は泣くことがあるが、映画が完成して観客のいる暗闇に曝すと、自分の映画で泣いたことはなかった。
あの夜は特別だった。中野武蔵野ホールの暗闇で『三月のライオン』という映画を観た。あと一日でこの映画館が閉館してしまうという夜、私は自分の映画の観客になれた。子どもの頃から、映画はうしろめたいものだった。だから、人を集めて電気を消して観る映画館が好きだった。あの暗闇とうしろめたさ。今夜で中野武蔵野ホールの暗闇に呼吸するアイスやハルオともお別れ。主演の趙方豪が死んで、去年七回忌を迎えた。大切な人とお別れには慣れたつもりだったが、場所の死にはどう向き合ったらいいか、解からないままである。
でも、あの夜一つだけ解かったことがある。映画館が死ぬとき映画も一緒に死ぬということだ。映画はまた他の暗闇で上映されるけど、同じ題名の映画でも映画館の数だけまったく別な映画が存在しているんだと思う。だから、中野武蔵野ホールの死は、あの暗闇に映し出された全ての映画の死だと思った。サヨナラ、中野武蔵野ホールの映画たち。サヨナラ、中野武蔵野ホールの暗闇。

1980年、16ミリで初の長編『風たちの午後』を完成。国際的な評価を得る。'91年には長編第2作『三月のライオン』を発表、「ルイス・ブニュエル黄金時代賞」受賞。2000年、ロンドンを舞台に撮影した『花を摘む少女と虫を殺す少女』を発表。
現在、『僕』の地球は青かった』（辻仁成原作「旅人の木」より）や、魚喃キリコ原作『strawberry shortcakes』などの撮入準備中。

